個に応じた自立活動の指導
～明確な評価方法の探究～

小学部まとめ

1. 自立活動の評価についての話し合いや文献研究

自立活動の評価について思うこと…

目標と評価は密接。
目標設定には発達
検査を参考にしたい。

授業後のエピソード記録を
書式化すると書きやすい？

行動観察での記述式評価が中心。
客観性を保てる工夫が必要。

全校で使える評価基準
があると引継ぎしやすい。

Aグループ（自立主体）

自立活動の評価について思うこと…

評価しやすい目標設定

引継ぎがしやすい評価

数値では伝えきれない評価を
どう評価するか・・・

評価の書き方の統一が
難しい

Bグループ（知的代替）

自立活動の評価について思うこと…

誰にでも評価しやすくするためには基準をもうけることも必要

絶対評価で評価するのがよい

子供自身にも分かるような具体的な目標があると評価しやすい

Cグループ（知的代替・準ずる・下学年）

見えてきた課題

実態が異なる中、評価の書き方を統一したり、基準となる指標を使ったりできるのだろうか・・・

評価が主観になってしまわないか

教師の経験や知識の有無に左右されてしまうのでは

どんな評価だったらいいの？

こんな評価がいいのでは？

引継ぎとして使える評価
＝誰がみても分かりやすい評価

評価の結果が次の目標設定
につながる評価

評価基準を使った評価

多面的な評価（指導要領より）

評価の種類

診断的評価　現在なにができ、どういう指導が必要かを明らかにするための評価

年度初め・年度終わり

形成的評価　教師の働きかけがどの程度児童に理解されたか明らかにするための評価

授業ごと

総括的評価　指導の過程を総括的に評価　学期末ごと

整理してみよう！

小学部が考えた具体的な評価方法①

全校統一の評価基準を使い、現在の到達度を明確にする

診断的評価

「学習到達度チェックリスト」
徳永先生

先生方の意見

- 発達のばらつきや各領域の段階がパッと見て捉えやすい
- チェックリストに加えて必要に応じて記述できる欄があるとよい

小学部が考えた具体的な評価方法②

個人の目標に対しての絶対評価

形成的評価　　総括的評価

ルーブリック評価

ルーブリックとは、課題についての達成レベルを観点と尺度からなるマトリックス表で評価したもの。課題について達成目的を設定し、その達成のレベルを段階的に分けた表で示す。

ルーブリック評価を活用した演習

小学部では、グループごとに事例児を決め、その児童の自立活動指導計画の目標を一つ例に挙げ、4段階で評価基準を決める演習を行いました。

↓

その後、ルーブリック評価についての良さと課題について意見を出し合いました。

演習シートの一例

めざす方向性がわかる！

指導目標

教師の介助を受け入れながら、あぐら座位をとることができる

評価基準

A（基準以上）	教師の介助なしで、机やクッションを使ってあぐら座位をとることができる。
B（基準値）	左脇と、右腰の介助を受け入れて、3分間あぐら座位をとることができる。
C（標準には満たない）	左脇と、右腰の介助を受け入れるが、短時間であぐら座位が崩れてしまう。
D（目標達成できない）	介助を受け入れられず、あぐら座位をとることができない。

ルーブリック評価の良さと課題

良さ

・担任以外の指導時に、何をやればよいか分かりやすい。

・指導段階が分かりやすい。

・基準を考えることで、目標の妥当性が明確になる。

・達成しやすい目標値を具体的に立てることができる。

・基準が立ててあると、引き継いでも評価しやすい。

課題

・1人で目標全てに対して基準を考えるのは難しく、時間がかかる。

・担任が変わると評価が変わる可能性がある。

・実態が分からないと基準が立てられない。（年度初めは難しい）

・基準を考えること自体が難しく、妥当か判断することが難しい。

・障害が重度になると、4段階では評価しきれないことがある。環境や体調などを総合的に踏まえて評価をしたい時には記述の方が適している。

2. 自立活動の評価についての事例研究

ルーブリックを活用した事例研究

ルーブリックを用いた自立活動の評価様式

対象児生名（　小学部　　）

目標（評価規準）

舐めたい味を選択して、身体の動きで自分の意思を相手に伝わるように発信することができる。

【評価基準】

A	教師の問いかけを聞いて、肩や手のぴくんというはっきりとした動きで応答できる。
B	教師の問いかけを聞いて、小さな手の動きで応答する。
C（現状）	教師の問いかけを聞いて、どこかしら身体を動かして表出しようとする。
D	教師の問いかけを聞いて、聞いている雰囲気がある。
E	教師の問いかけを聞いても、無反応もしくは関係なく動いている。

まずは、グループごと、事例児についての評価のりじゅん・もとじゅん表を作成

ルーブリックを活用した事例研究

Aグループすり合わせ協議　記録

R４.10.20

参加者	保坂・長田・斎藤・篠原・渡辺・小松・塩島
目標(規準)について	※妥当であったかどうか(見直しが必要な場合はその内容を記載) **舐めたい味を選択して、**身体の動きで自分の意思を相手に伝わるように発信することができる。 ↓ **舐めたい味を聞かれたときに、**　　に変更！
評価基準について	※妥当であったかどうか(見直しが必要な場合はその内容を記載) C:教師の問いかけを聞いて、どこかしら身体を動かして表出しようとする。 に「**全ての質問に反応する**」も追加
現段階での評価とその見解	評価【　B　】 見解：今回の評価期間では、本人が反応をするまで質問を続けたため、結果的に何等かの反応が見られ、全ての日がBという評価になった。質問の仕方や評価の方法の再検討が必要。
支援方法の検討	・質問する回数を**３回**とし、それまでの反応で評価を行う。 ・こんぶとキャンディー、はじめに反応があっても、**両方聞く**。 ・状況によって**「どっちでもいい？」という質問も加え**、それに３回以内で反応すれば良しとする。
所見のまとめ	日によってすぐに反応がでる時と何回も聞かないと反応がない日がある。何が関係しているかを探るために、所見の欄に**その日の体調を記載**するようにする。
次回からの評価時に共通確認しておくべきこと	・動画はできるだけ質問する人でない人が撮る。 ・担当だけでなく、ひまりさんの給食に入った教員が評価できるようにする。
その他	

目標（評価規準）

舐めたい味を聞かれた時に、身体の動きで自分の意思を相手に伝わるように発信することができる。

【評価基準】

A	教師の問いかけを聞いて、肩や手のピクンというはっきりとした動きで応答できる。
B	教師の問いかけを聞いて、小さな手の動き又は頭をどちらかに動かして応答する。（３回以内）
C（現状）	教師の問いかけを聞いて、どこか身体を動かして表出しようとする。もしくは、全ての質問に反応する。（４回以上）
D	教師の問いかけを聞いて、聞いている雰囲気がある。
E	教師の問いかけを聞いても、無反応もしくは関係なく動いている。

一定期間評価→すり合わせ協議　を3回繰り返した

協議の結果、のりじゅん・もとじゅんの変更もおこなったグループも

ルーブリックを活用した事例研究

自立活動の評価

これまでは担当教員が中心評価していたが・・・

すり合わせ協議をしたことで・・・

より評価しやすい基準や支援方法など、1人では解決できないこともみんなで考え、改善していくことができた

小学部のまとめ

ルーブリックを活用してみて

良さ

★基準があることで評価しやすい
★複数で行うことで、みんなで児童を理解できる
★みんなで目標を明確にでき、意識しやすかった
★分かりやすい言葉で評価基準をつくることで、児童と目標を共有できた
★スモールステップが具体的で分かりやすい
★教師の指導について考えるツールとして有効だった

課題

★1人で基準を考えるのは難しく、複数でかかわっているからこそ活きる方法である
★教科の教育課程では、評価場面の時間が取りにくかった
★全ての評価場面に活用できる方法ではないように思う
★「自立活動の授業の評価」という形であれば使いやすいが、児童の評価にするにはそのままの使用は難しい

小学部のまとめ

自立活動の評価について

・自立活動のどの学習場面にも適した評価とは？

・中心課題を出すための実態把握までに時間がかかる、評価しやすい基準を設定するには実態把握がきちんとできていることが必要

・教科と自立の評価を分けると分かりにくい、自立活動的視点や教科との関連が評価の中にあると分かりやすいのではないか

今回の研究で得たことを、実際の指導計画の評価や今後にどう活かしていくかが課題である。